

期間：2014年9月7日(日)～11日(木)  
 主催：(現地) Hiro Asian Project、Chiangmai  
 為替：1バーツ≒3.4円

※チェンマイ  
 タイ第二の都市、タイの京都ともいわれる盆地の中に四角い田の字エリア。以前からメディカル・ハブ構想や外国人の療養施設などの計画が多い。物価はバンコクに比べ8割位か。(山中は全行程8日のうち3日だけ参加)



## ●タイと日本の基礎的情報比較

2013年基点

	タイ	日本
面積	51万3,120k m <sup>2</sup>	37万7,915k m <sup>2</sup>
人口	約6,823万人	約1億2734万人
高齢化率	11.9% (2011)	25% (2013)
	—	29% (2020)
	25.1% (2030)	32% (2030)
平均寿命(男)	71歳 (2012年)	80歳 (2013年)
平均寿命(女)	79歳 (2012年)	87歳 (2013年)
合計特殊出生率	1.41 (2012年)	1.41 (2012年)
1人あたりGDP	5,674US\$	38,491US\$
所得税	10～37%	5%～40%
消費税(付加価値税)	7%	8%
医療費	30BT 医療(※)	自己負担あり
介護サービス	公的制度無	自己負担あり

●人口 チェンマイ県(約168万人) チェンマイ市(約14万人)

※タクシン時代制定された1日30BT以上は不要という医療制度、ただし病院は選べない(すごい混雑)

タイは全土で貧富の格差は激しいが、特に北部エリアは極貧層も多い(ミャンマー移住、山岳民族、人身売買等も未だあり)1997年にタイコミュニティケア制度(日本でいう地域包括制度)を制定。困った人がいると(高齢者介護に限定せず)、ソーシャルワーカーが訪ねてチェック。家族や近隣でできるだけ対応するのが基本ながら、無理なら施設入所もある。ただし半年が基本で、あくまでも「自宅に戻る」という施策。これを繰り返す場合もあるが、あくまで自宅がベース。タイは「家族が介護」99.9%。「施設に入る人は可哀そう」という感覚が普通。国営老人ホームは全土に20ヶ所のみ。チェンマイに1ヶ所。入居者200人に対し職員8人程度。職員不足を補うのは、入居者のうち比較的元気な人がもっと弱い人の世話をする。施設はベッドが大部屋に並んでいるタイプ。

### 3. Dok Kaew Gardens (私営老人ホーム訪問)



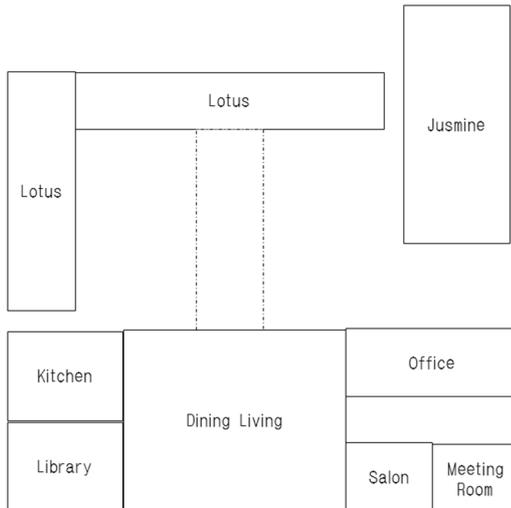
●2014年9月8日(月) 13:30~15:00

Mckean 財団グループのひとつ。私営老人ホーム。

欧米人(豪州?)の経営。基点は100年前?のハンセン氏病の隔離病院から。チェンマイ郊外の広大な敷地(どれくらいあるか不明、森とかも?)内に、病院や各種施設があり、ここは高齢者のための私営ホーム。

全体的に色調が白く、なんとなくプライベート・ホスピスなイメージ。キレイだが、若干冷たさを感じる。タイにあって欧米の雰囲気。

案内してくださったのは、Hollyさん(女性、西洋人)



施設は自立棟(Lotus)と特別棟(介護棟のこと、Jasmine)に分かれる。全部で19室。図書室、美容サロン、談話室など共有スペース。5分のところにリハビリ病院があり、服薬管理や緊急対応は病院の看護師が対応する。介護職員は10名常駐。

特別棟はほとんどがアルツハイマー病。入居者は欧米人中心(アメリカ、ドイツ、オーストラリア等)、日本人は現在4名、タイ人は2名。

入居一時金(これは海外で表現が難しい)は無で、デポジットで月額費用の2ヶ月分。退居時に全額返還。

月々の費用はLotusが3.2万Bt(約11.2万円)。Jasmineが4.5万Bt(約15万7500円)。食事も介護も他サービスもすべて込。ただし頂いた料金表を見ると、特殊なマネジメント=重度の認知症?は別途4千Bt/月、送迎、電動マットレス、車椅子、消耗品

などは別途) タイ人はお金持ちでないと無理な金額。

現在入居者の最高年齢は96歳。自立棟→介護棟への移動もあり。寝たきりには対応できないので、その場合はグループ内の病院へ行くことに。

ショートステイの対応もOK。1日~数週間など。家族の旅行の時に預かるなどもしている。アクティビティは簡単なもの。食後のあとの体操や散歩。(敷地内はほぼ森なので)

入居者は、元々チェンマイ(タイ)に住んでいた人もいるが、海外から来る人も。VISAは、リタイアメントVISAやメディカルVISAを使う。最近全体的にVISA取得が厳しくなっているが、施設側が責任をもって全員のVISAコントロールをする。

利益はグループでも単体でもきちんと出ている。この施設は開設5年目。現在の入居者の2人は開設当時からいる。看取りもあり。病院には火葬場もある。

財団としての運営のため(元々クリスチャン系)、口コミでの入居が多いが、雑誌への広告、道路の看板広告なども出している。見学者は「自分の老後のために」という人がほとんど。仕事の視察で来た人も「自分のこと」で考える人が多い。

安全が第一。その点は自信をもっている。タイ人の職員は優しいので、ストレスなどはないと思う。高齢者を敬う気持ちが大きい。職員管理には問題はない。(タテマエのコメントかも?)

視察中、日本人入居者の一人(Sさん:男性)と少し話す。認知症状あり(レビーかも、パーキンの特徴あり)。

Hollyさんに聞くと、親戚がチェンマイで会社をしており、その人がSさんを日本から呼び寄せた。日本の介護施設も見て回ったが、こちらのほうが絶対に環境が良いと思って。なので、Sさんはいきなり介護のためにタイに来た様子。

(あまりきちんと聞けなかったので、深い事情は不明)



食堂兼リビング: 全体的に白い壁、白いドアで白い建物。風通しはよく明るい、病院っぽい？。庭はかなりキレイに整備されており、訪問時もガーデナーが入って植栽整備をしていた



LotusとJasmineはウイングが分かれる。共有スペースは、ファミリールーム、理美容室、図書室、ミニ販売コーナーなど。



右写真) 中身はスナックやカップめんなどのミニ販売

居室はたぶん 30~35 m<sup>2</sup>程度のワンルームにトイレ・シャワールーム。かつて訪れた台湾の介護型有料老人ホームの印象に近い。自立棟といってもキッチンがあるわけではなく、単に機能別になっているだけで、基本は同じ作り。



緊急通報は、ベッドサイドのナースコールとトイレにあるボタン

家具やエアコン、テレビは全部備え付け。長期で入居の場合、自分の家具の持ち込みもOK。

必要に応じてギャッジベッドもあり。



介護職員は、Jasmineに滞在。  
左) 部屋別にわかる緊急連絡ボード  
右) 職員の勤務時間帯ごとの名前  
24時間介護



指定席になっている様子。食堂も自立／介護で分けていない  
簡単なアクティビティ(リハビリ)グッズ

ちなみに Jasmine のメイン玄関以外は施設。理由はアルツハイマーの人が多いから、だそう。

施設内に手すりがどこにもない(トイレ以外)。理由を Holly さんに尋ねたが「わからない」。通訳の方の話では、介護しすぎてここではすぐに弱ってしまう。手すりのない理由は職員が介助しすぎているからかもしれないとのこと。リハビリ病院系列なのに、不思議な現象…。

#### 4. Nakornping Aphaibalkett Nurse Aide School (看護助手専門学校訪問)



●2014年9月8日(月) 15:30~16:30

今回通訳で付いてくださっている方が先生をしている学校。看護助手とは、日本に該当する資格がないが、ヘルパー2級+α?。国の認定資格としてきちんとあり、学校も教育省認可の指定校。半年のカリキュラム。とはいえ、それほど人気がある資格でもない様子。タイは大学への進学率は高くなっているものの、経済環境がよくないので就職も難しい。中卒、高卒がほぼ半分以上だが、大卒で資格取得する人もいる。試験はない。修了でOK。

授業料は、半年で3.8万バーツ(約12万9千円)

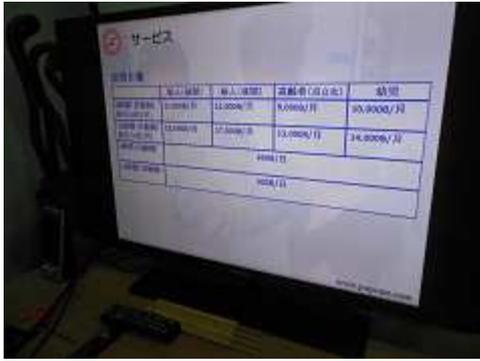
医療行為はできないが、経管栄養や摘便などは可能(日本でいう特定介護福祉士のようなもの)

2010~11年位は生徒数が100名を超えていたが、2013年は77名、去年から急激に景気悪化(おそらく政変等)で、今年は17人しか生徒がいなかった。卒業生はおもに病院へ就職。学校で保健室の先生もできる。ここでは、E-learningも可能にした(実習はスクーリング)。e-learningで10人卒業。

卒業生の介護派遣などできないので(ビジネスとして)、個人的に「紹介」をボランティアでしている。大変。ある意味ケアマネ的な仕事をしている。

在宅介護…基本的に家族介護の国なので、タイ人の訪問介護というよりも外国人がほとんど。「介護事業所」なるものは、日本のイメージとは違い、派遣紹介のようなもの。コミッションとして1000バーツほど取っているのが普通の様子。学生では卒業して介護ビジネスをしたいと言う人もいる。日本と異なり、介護ビジネスをしたい場合は一般の会社を作るのと同じ。単なる法人扱いなので、認可や事業指定などは必要ナシ。

VIVO BENE Ltd. スイス?の会社? 12月に「リゾート介護」、ホテルのマネージャーをしていた人が支配人。介護職の募集で学校と提携中。1ヶ月の給料は1万バーツ以上を予定。英語やドイツ語ができればさらに2~3千バーツ上乗せ



★訪問介護相場

	病人（昼間）	病人（夜間）	高齢者（自立化）	幼児
8時間（月給制） 休日（4日／月）	11,000B／月 （約 37,400 円）	12,000B／月 （約 40,800 円）	9,000B／月 （約 30,600 円）	10,000B／月 （約 34,000 円）
12時間（月給制） 休日（4日／月）	15,000B／月 （51,000 円）	17,000 円／月 （約 57,800 円）	13,000B／月 （約 44,200 円）	14,000B／月 （約 47,600 円）
8時間（日給制）	600B／日（約 2040 円）			
12時間（日給制）	900B／日（約 3060 円）			

★住み込み介護

	重病ではないが 自立不可	経管栄養、たん吸引利 用者	高齢者（自立化）	幼児
12時間以内（月給） 休日（4日／月）	18,000B／月 （約 61,200 円）	20,000B／月 （約 68,000 円）	13,000B／月 （約 44,200 円）	14,000B／月 （約 47,600 円）

5. Thammapakorn Social Welfare Development Center （国立老人ホーム訪問）



●2014年9月9日（火）10:00～14:00

本来は、9:30より「Piyamal Elderly Service Center（公営老人デイサービスセンター）」の予定だったのが、出発してから「今日はお休みとの連絡が入る」。日本で何度も確認、前日も確認しているのにとのこと。「これがタイですから」仕方ない。とはいえ、日本が実はこれから目指そうとしている小規模の地域コミュニティ（行政、職員、地域住民など）がうまく運営しているところだそうで、主催者の方も「本当は一番見てほしかったところ」らしく、非常に残念…

最初にJICAから赴任中のPTのHさんが、いろいろ説明してください。

<Hさんによる説明>

設立59年目のホーム。現在100人強が入居。感覚的には60%が自立、20%が軽度の要介護、20%が重度の要介護。認知症は10～15%程度ではないか。要介護の要因は、脳梗塞が10%、他に交通事故や関節疾患が多い。入居条件は、タイ国民であり、扶養家族や資産のない人。審査がある。利用者は全て無料、国から1人あたり2万バーツ／月、出ている様子。

職員は50人ほどいるがほとんど事務職員？看護師も1名いる。看護助手（資格者）はおらず無資格が介護職として働いている。介護でいい人材はあまりいない。介護職は地位が低い。現在、日本（国）からLTOPというプロジェ

クトが来ており、介護技術や仕組みを構築し、介護サービスのモデルを作ろうとしているが（2017年迄）、難しい。資格制度を認知させていきたいようだが…。

リハビリ担当職員はもともとおらず、JICAからHさんが来ているが、チェンマイ大学の学生も午前中は軽いリハビリ実習に来ている。Hさんの勤務時間は8:30~16:30（月~金）が標準で、個別対応として1日に7~8人見る。

基本は家族介護なので、他者に頼むのは、メーバーン（家政婦/ミャンマーや山岳民族などの超低所得層が多い）。しかし、全く介護になっていない。正しい介護を指導しないといけない。日本人ロングステイヤーにも介護の問題は少し出てきているが、問題が出れば日本に帰るとするのが基本。本当はタイにいたいだろうが。勉強会なども開いているが、「わかってはいるけど、自分はまだ…」「そのときがきたら」の感覚。このままでは、まずいと思う。

（職員について）あまり仕事熱心とは言えない。他の仕事では「それは私の仕事じゃない」という感覚が多いか。Hさんが、介護の仕方を絵にして壁に張ったり、カルテを作ったり（アセスメントとか、関係職員が集まるカンファレンスがない）、評価表を作ったりしている。個人メニューの開発、体操DVD作成、問診票の作成、指さしイラストでできるように（文盲の高齢者も少なくない）。リハ科の大学生指導も行う。1週間バンコクへ出張などすると、その間完全にリハがとまるので、帰ってきたら急激にダメになっている人もいる。誰も代りにリハを引き継ごうとはしない（看護師も）。

予算がないので、使わなくなった装具など日本からもらう。できるだけサイズが合うのを選ぶ。介護棟のベッドが高すぎ（高さ）で、現在パラマウンドベッドとJICAで導入取り組み中。PTはエリート（大学のリハビリ科）だが、まず病院勤務。インテリ層で勉強はよくできるのに、現場であまり使えない。一部の人はしっかりしているが。リハビリを介護に使う発想は今はない。（看護師も同様）

さらに、本人、家族、介護職なども「リハビリはしんどいし、痛いし可哀そう」「もうトシなんだから無理をしないでいい」「困っているならやっであげたらいい」という考えが根強い。現在リハ提供は、希望する人が中心。だからすぐ寝たきりになる。「歩けると旅行に行けるよ」「トイレに1人で行けるよ」というと、そうなりたい。でも何か努力するのはいや。それならしないほうがいい。

介護職員の仕事は、食事補助、洗体、薬を飲ませる、オムツ交換だけ。入居者が「水を飲みたい」と言っても対応するのがイヤという状態。入居者は自立の場合は何でも自分でする。介護の重い人は放置するのであつという間に寝たきりに。動ける人を過剰に手伝う傾向がある。研修などもあるが、書類社会なので形だけのところも多い。「リハビリ」はタイの文化と真逆のこと。

看護師は4年生大学、試験、5年に1度の更新試験。結構厳しい。更新できない人は病院で仕事ができない。この国営施設の職員は、国の公務員、県の公務員、施設の直接雇用と3分類がある。公務員は保障が手厚い。

#### <看護師・所長への質問など>

非常に優等生的な答えばかりが帰ってくる。

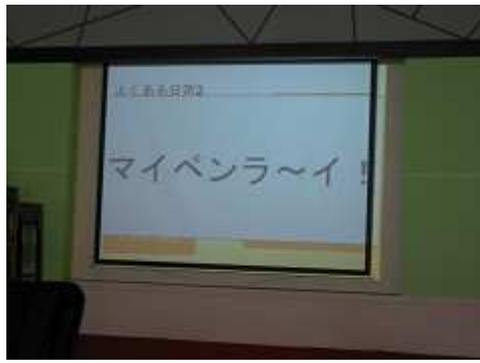
#### <施設>

自立棟・・・男女別に2室あり、1室定員が40名。介護棟（1室男女混合）・・・24名。職員は自立棟1名（夜間も1名）、介護棟は3名（夜間1名）自立棟にも要介護3~4レベルの人はいる様子。職員1名で対応できる理由は、元気な高齢者が要介護者を支援するから。キッチンに2名スタッフがいるが、やはり自立高齢者が手伝っている。

入居者は基本、家族がいない、家族が見放している人ばかり。まず面会などに来ない。職員は絶対的地位。クレームが出るはずがない（家族の関与がない）。入居者も意地悪されたくないの、職員にたてつかない。

一方で、入居者は意外と楽しそうに自由になっている。カギも施錠もなくあけっぴろげ。外に簡単に出入りされる環境だが、認知症の人でも徘徊や暴力、不潔行為などの問題は一切ない。自由が一番？意外と本人たちは幸せ感大きい気がする。介護棟は待機者が3、4人いるが、自立棟はない。（まだ少し空きがあるくらい）医師は月に3回来る。

パワーリハのマシンが結構あるものの、全部アウトドアに設置（Hさんも理由がわからない）。しかもほとんど壊れている。使える部分だけ使うようにしている。どこかからの中古の寄付のようだ。



左)メイン玄関入ったところの受付カウンター（役所みたいな感じ）

右) H さんが最初に“日本人的に”PP でタイの介護状況、施設の紹介、PTとしての業務状況などをきっちりプレゼンしてくれたのですが…

最後の方のこの 1 頁に全ての悲哀が詰まっているかと。 マイペンライはタイ語で「大丈夫」「問題ない」という意味ですが、外国人がタイ人を揶揄するときにも使う。『いい加減、なんでもええやん、どうでもええやん、・・・』＝マイペンライ。



左) チェンマイ大学のリハ科の学生  
右) リハルーム 結構広くてベッドはなぜか 8 台もある（1 台しか使わないのに） 器具もそれなりにあるものの、「個別」対応には難しいのかも…  
Hさんがいろいろ手作りしたりも。



左) 看護師詰所 ほとんど座っていた。1 日座っている日が多いとのこと。何か頼もうとすると「私は忙しい」(・・・)

右) 敷地の中央に位置する食堂兼リビング兼イベント会場 壁はないのでオープンエアな環境



左) カラオケ大会大流行。毎日。

右) 男性用の自立棟（40 ベッド）ほとんどの人は外で、昼寝したりお喋りしたり、職員の手伝いしたり…、ものすごくのんびり



左) 一番左 61 歳の脳梗塞（右マヒ）、真中勤務 22 年目の介護職、手前は通訳の T さん、右（顔だけ）91 歳下半身は動かず、盲目。

左の方が 91 歳の方の世話をしているので、91 歳の方もまだ自立棟に。

右) 職員の寮も敷地内に



左) 厨房 コックと助手が2人ずつ  
入居者のボランティアも  
結構キレイに管理している厨房



右) 当日頂いた昼食  
結構美味しい。視察メンバーではおかわりしている人も。他に、フルーツとミニお菓子、ジュースも



左・右  
なぜかリハマシーンがアウトドアに  
Hさんが施設責任者に聞くと  
「ここがいいの！」だそうです…



左) 女性自立棟 (40 ベッド)  
女性ゆえかほとんどカバーをきちんと  
とされていた。左側の小さい棚ひとつ  
が私物の置き場

右) 中央のオープンエアで一緒に  
ランチ



左) 左から保坂さん、看護師、所長  
質疑応答で、メンバーから「働き甲斐」  
や「日々の仕事内容」について質問あり、  
素晴らしい答えが返ってくる。

右) おそらく国の偉い人や視察団 (今  
回のように) のために作られたと見える  
過去からの施設の経緯。立派な解説  
をしてくれた。



場所は市内中心部のいい場所。結構広い敷地の中にある。  
現在敷地内に外部からも通えるようなデイサービスを建築中。  
10月オープンとか。

## <介護棟>

写真不可だったので写真はナシ（後日、Hさんの話では通常の視察では介護棟は見せていない。というか見せられないのだそう）。

驚きの介護棟。3列に病院ベッド（高さかなりある）が並び、仕切りも何もない。寝かせきり。昼食時だったが、寝たまま硬縮した女性がわずかに動く手で、手づかみでモノを食べていたが、誤嚥するのでは。Hさんも誤嚥指導を伝えるもの、介護職などは気にしない。仕方ないので絵をかいて壁に貼っている。床に寝転んで（落ちて？）いる人も。悪臭はしなかったものの、環境は決してよくないのがわかる。トイレが3ヶ所、シャワーが1ヶ所。座ったままのシャワー。

※いずれの棟も当然ながら冷暖房はない。夜間は蚊帳が与えられるそうだが。

## 7. Hiro Asian project (ロングステイ視察)

●2014年9月10日（水）9:00～12:00

現地で長年不動産会社を営んでいる日本人のAさん（奥さんはタイ人）のアテンド。8年前の視察のときは高級コンドミニアムばかりだったので、今回の視察は、一般ロングステイヤーのレベルがわかって興味深かった。



①FURAMA (500室強) 日本人ステイヤーが一番多いコンド（分譲／レンタルもあり）500室あって100室が日本人。市内中心地のいい場所。24時間セキュリティ（基本的に外国人のコンドは24時間警備員がいる）。2階がフロントと共有スペース。コンビニやフィットネス（かなり大きい）、カフェ、レストラン、いくつかのショップ。4階にはプールも。各フロアごとにドアロックがあるので、3重のセキュリティ。見学はスタジオタイプ（45㎡）。バルコニーからの見晴が非常によい。11月～2月頃の寒い間だけ来る人が多い。

45㎡タイプ／レンタル月3.6万円、購入だと500万円 月の管理費は2,400円 24時間セキュリティ付



左)2階に全館のフロント(24時間)  
1階には警備員、駐車場も管理

右) 45㎡1ルームタイプ



左) 西洋人タイプのキッチンなので  
若干高いか

右) バスルームは普通のホテル並み



左) 入居者専用のプール(4階)  
近くで見てもキレイに管理されている

右) 上の部屋のバルコニー  
チェンマイ中心地なので、見晴らしは非常によい。



②築20年(と思えないほどガタガタ、全然メンテされていない?) 普通の分譲マンション

タイ人もたくさん住んでいる普通のマンション。とはいえ日本人の感覚では、低所得層のアパートか?という印象。地理があまり把握できないけど、場所は非常によいところだそう。

35㎡程度? 購入の場合150万円



写真より実物はかなり古い  
あまり清潔感がないような…  
バスルームは一応バスタブあり

バルコニーはなく、窓だけ。  
場所はかなりいいところらしいが、地図上のどこかへんかイメージつかず・・・

### ③サービス・アパートメント (The Opium serviced Apartment)



ここなら長期レンタルしたいレベル。やはりチェンマイは価格が安いと痛感。昨年プーケットで同様のサービス・アパートメントに滞在したが、相場観が3~4倍違う。フロントスタッフも英語ができるし、笑顔で接遇が高級ホテルなみに素晴らしい。

58㎡ (1ベッドルーム) 月レンタル7万円 (+光熱費は必要)、デイリーユースは1万円程度 (全部込)



57㎡タイプの部屋  
キッチンはこの字型でオシャレ



バルコニーはプールに向かっている  
バスルームも広い



中庭にプール  
建物は4階建て。  
屋上からはドイ・ステープ側の山も見える

毎日クリーンサービスが入るので、掃除とリネンの交換は費用に含まれる



④名前不明（日本人の50代の女性が購入しているコンドミニアム）  
現在一時日本帰国中という部屋に入らせてもらう。生活感そのまま。  
80 m<sup>2</sup>と広いものの、使いづらそう。なぜタイはきちんとメンテナンスしないのかというほど、部屋の中の壁の破損や棚の欠落など…。  
購入の場合 780万円 レンタルだと月68,000円程度



左) フロントはきちんとある



右) キッチンがやたらと大きい



左) キッチンを逆側から



右) リビングルーム

さらに大きなベッドルームも1室あり、バスルーム、バルコニー

ロングステイヤーは旅行でなく「住む」ので、このレベルが現実的なのだと思う。旅行視点で見ると見誤る。Aさんに皆さんどう暮らしているのか？聞いてみると、男性は毎日ゴルフ（1ラウンド1000Bt程度、会員権は15万円位が相場／時価売却あり）、女性はフィットネスとグルメ。でもこんな生活だとどうかと…。



○タニン市場視察

、大きな市場。ロングステイヤーも市場での買い物がほとんど。スーパーに比べるとだいぶ安い。10Bt（35円程度）～。果物も袋いっぱい50Bt（175円）程度。



●2014年9月10日(水) 12:30~16:30

他の視察メンバーは午後から全員チェンライ移動のため、脱落帰国する私は一人残り昨日の公営老人ホームへ。JICAから派遣されているPTのHさんにお世話頂く。

前日のタイ人職員(看護師・所長)の模範回答の裏側、その他JICAや政府間の話など教えて頂く。日本など比にならないくらい書類社会でいろいろな課題も。前日の「お客様(視察)」対応も疑問か。

Hさんの取り組みとしては、

- ・月～金(勤務時間は8:30~16:30)勤務。でもかなり融通がきく。個人事業みたいなもの
- ・PTの仕事以外に、JICAのタイ支部の仕事や書類作成も多い
- ・タイにリハビリという意識がないので(本人、家族、職員、誰にとっても)啓蒙活動

何が大変かという、職員間のコミュニケーション。日本の感覚は一切通じない。アセスメントやカンファレンスはない。

現在はチェンマイ大学のリハビリ科学生が実習として入居者へのリハビリもしているため、軽い人は学生にふっけて、難しいケースを担当するようにしている。1人に1時間~30分。学校では教わることも、現場ではしないことが多い。そんな中、孤立奮闘。自分なりにカルテなど作成。介護予防でオリジナルの体操DVDも制作(もう1名近隣にシニアJICAのOTさんがいるので一緒に)→可愛くていい感じ



「上を向いて歩こう」のタイ語バージョンの歌に合わせてオリジナルの体操作り。日本文化も取り入れて、富士山ポーズやへんなオジサンポーズも。入居者には好評らしい。とてもいい感じにできていました。

#### ■当日の実際のリハビリ



①69歳男性 交通事故1回目に右足切断 交通事故2回目に左足損傷(病名が難しくてわからない、骨がもうダメで足が棒のようになって、骨が出っ張っていた)。義足を作っていたものの、痩せて合わなくなった。本人はもう一度自分で歩きたいという気持ちが強い。→リハには積極的。

現在は介護棟入居。認知無。本来

は介助あれば自分でトイレができるはずなのに、「介護棟は全員おむつ」というルールがあるので、オムツされている。

介助の仕方介護士に指導するものの意に介さず… 車椅子は自走 OK

義足と装具をつけて歩行練習。立ち上がり・座りの練習。いろいろ組合せ。風船バレーの相手として少しお手伝い。Hさんから、何が悪くて、どういう理由でこれをするとどうなる、ということをとて丁寧にも教えてくださる。もちろん利用者にもタイ語できちんと状況説明、しながら。一動作ごとに利用者「評価」を言わせている。笑顔でジョークも交え。

汗だくになりながら（この暑いチェンマイでクーラーなし！）、1時間びっちり。



立ち上がり動作がうまくいかない  
使う筋肉の位置がおかしくなっている  
ため、スムーズに必要な筋肉を使うた  
めの動作。何度も何度も繰り返す。  
おじいちゃんも真剣で、エライ！  
とても男前な方。



②60歳男性 脳梗塞（右マヒ） 担当時は梗塞を起こして3年目くらい。  
リハビリしていなかったのが酷い状態だった。でも開始後1.5ヶ月で見ると  
からに違う状態に。（重度に見えず、かなり姿勢もキレイ）FIM（？）1→4,  
5レベルに

この方も前向き。リハビリルームではなく、まず部屋（40人の自立棟）  
に迎えに行き、アウトドアのマシンに。誰かの寄付ばかりらしく、しかもデ  
ジタル表示は壊れている。ランニングマシンを使って、右足のゆがみを直す  
Hさんが上半身を矯正し、私が右足をまっすぐ前に出せるよう補助。やって  
いるうちに、右足の力が弱まってスムーズにまっすぐ出せるように。ちゃん  
と説明しながら指導している。利用者と私に同時通訳で喋るので、大変だっ  
たかと・・・



10m歩行速度もスタート時から18秒→12秒まで。  
その後、リハビリルームへ移動して右手の引き伸ばし、右足むくみのマッサ  
ージ、ストレッチボードなど。  
その最中に飛び込みのおばあちゃんが・・・



③飛び込みのおばあちゃん

Hさん施術中だったので、私に何か訴えるけど、さっぱりわからない。でも  
何か困っている様子なのでとりあえず聞く。ボディランゲージから（背中が  
曲がっている）、右肩から右腕が痛いかしびれている、看護師室（リハビリ  
ルームの隣に、窓ガラスでつながっているのの様子がすぐわかる）に行っ  
たら、塗り薬をくれたけど（持っていたので）、クリームを言いたいらしい。  
訴えたいことは体調（右半身）不調と、看護師への文句の様子。

この方、北タイ語の方言がきつくてHさんも全然わからないとのこと。ただ、  
だいたい何が問題かわかるようで、右背中より肩、腕のマッサージ。最初痛  
がっていたおばあちゃんもだんだん表情変わって、上がらなかった腕が上がる

ように。だいぶよくなったのか、最後は笑顔に。薬はいやだったみたいで、結局開けずにお持ち帰り。



※アクティビティ  
外部からボランティアの先生（日本人ロングステイヤーもいる）が、手芸や工芸も教えに来ている。教室に参加する人も。そこで作ったものは、バザーなどに出店して販売利益は本人の手元に。  
趣味で手芸（手縫い）しているおばあちゃん



Hさん手作りのリハグッズ

## その他

チェンマイは日本人ロングステイヤーも多いので、地元の日本人会と介護問題の研究会も立ち上げている。若干感じていたが、第何次かのロングステイブームになりつつあるようで、今後彼らの「老後」の問題が出てくるとのこと。先日、日本人大使館で初の日本人高齢者の問題があったそうで、チェンマイからだいぶ離れた田舎地域の道に認知症でホームレス状態になっていた男性が発見された。どうも地元女性パートナーがいたようだが、捨てられたらしい。今後、このケースは増加するかもしれない、と。他国でも同様の問題が増加していくでしょう、とのこと。

短い時間のほんの少しの視察でしたが、どこの国にいても、表面的には日本は「恵まれている」と思います。でも、幸せなのか？

チェンマイの国営ホームは決してよくはない。でも入居者たちは文句もあるけど、幸せそうな表情で私たちにも常に笑顔で挨拶してくれました。庭で昼寝している人、数人が集まって喋っている人、カラオケしている人、読書している人・・・

認知症の人がこのオープンな空間でも外に出してしまうことなく、問題行動も全くない。一方で、高額（？）私営ホームの入居者は国営ホームのような表情をしていなかった。考えさせられるものがあります。